

# 改修期を迎えた国内プール事情と 経済的・効率的な改修工法

## 国内の学校プールは 耐用年数の限界時期に突入している

東京オリンピック以降、全国の学校に普及したプールは、島国日本にとって水泳技術を習得し、安全な生活を送るため、そして競技水泳のための練習用としての意義が重視された。これに合わせて増加したスポーツクラブ、スイミングクラブの対象は子どもから成人までの人たちが利用者となっていた。

学校プールの建設ラッシュは1970年の

前半で、この頃には美に1年で約1千基を越える需要があった。

我が国の高齢化と少子化が叫ばれるようになった、80年代後半からは、プール利用者に中高年者も増加し、身体に負担の少ない水中運動（アクアエクササイズ）や水中歩行が注目を浴びるようになる。

通常プールの耐用年数は30〜40年といわれており、現在から逆算すると、プールの建

設ラッシュだった1975年がちょうどその時期に該当する。当時企画されたプールの建設から30年、利用メニューの変化、そして経年を含む老朽化で、利便性が低く、また利用者が安心して使用できないプールも増えている。

こうした事柄をふまえると、全国のプール所有者にとってプール改修は共通のテーマであるといえるかもしれない。



古くなった室内温水プールは年中利用されているため塩素剤などによる劣化がみられる。



寒暖の差が激しい屋外プールは本体だけでなくプールまわりの老朽化が早い。

### FRP素材とプール

軽くて強い。絶縁性、成形性、保温性に優れたFRPは、プールに最適な素材であり、ヤマハのプール事業はその開始から貫いてこのFRP素材を採用している。

ヤマハのFRP製品は、プール事業より前、マリン事業における舟艇製品の開発がはじまりであり、プールはその技術の応用として、それまで水に浮かべる製品を、水を入れる製品に転用したと言ったほうがわかりやすいかもしれない。

美しい仕上げ、水密性、耐候性、耐薬品性に加え耐震性が高いこともFRPの特徴である。

加えて、短期施工や経済性についても効果は大きく、FRPにはこうした点がプール環境の高品質化に大きな役割を果たしている。

サビや腐食が無く、絶縁性に優れる

塩素などの薬品に強い

耐候性や紫外線に強い

成形性に優れ品質が安定している

水圧や耐震性に優れている

保温性、水密性が高い